

## ◇ 新刊紹介

郷土の藤野巖九郎先生 坪田忠兵衛著

昭和五六年九月 藤野巖九郎顕彰会刊

本書は藤野巖九郎が大正五年（一九一六）

仙台を去って翌年郷里の芦原町下番（当時は

坂井郡下番村）に戻ってから、七一歳で去世（昭和二〇年八月）するまでのさまざまな生活の記録をまとめたものである。

中国の文豪魯迅と藤野のうるわしい交友関係にかかわる著作の類はすでに公刊されているが、藤野が郷里に帰ってからの具体的な動向については不鮮明な点が少くなかった。

そこで著者坪田氏（県農業会議副会長）は地元の先覚の偉大な足跡をぜひ明らかにしたいとの意欲に燃え、丹念な調査研究のうえでの所産である。

なお「藤野先生を偲ぶ座談会」と先生の「略年譜」を付記しており、一読に価する。

（三上一夫記）